

文化庁メディア芸術祭ネットワークス 展示プログラムスケジュール

01 岡山 アニメーション部門

岡山市デジタルミュージアム
8月13日～8月21日 会期中無休
メイン展示=湯浅政明「四畳半神話大系」
(第14回アニメーション部門大賞)



© 四畳半主義者の会

02 東京 マンガ部門

自主制作漫画展示即売会 COMITIA 97
(有明・東京ビッグサイト東5-6 ホール)
8月21日
メイン展示=岩明均「ヒストリエ」
(第14回マンガ部門大賞) 他



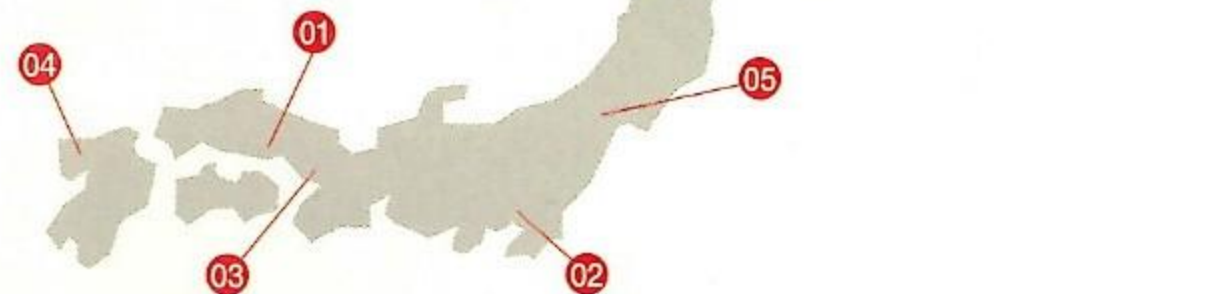
© 岩明均/講談社

03 神戸 エンターテインメント部門

神戸ピエンナーレ2011 (神戸ハーバーランド)
10月1日～11月23日 会期中無休
メイン展示=犬飼博士「eスポーツグラウンド」
(第14回エンターテインメント部門審査委員会推薦作品) 他

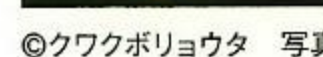


© エウレカコンピューター株式会社



04 長崎 アート部門

長崎県美術館(県民ギャラリーA・B室)
2012年1月2日～1月8日 会期中無休
メイン展示=クワクポリョウタ「10番目の感傷
(点・線・面)」(第14回アート部門優秀賞)



©クワクポリョウタ 写真=木奥恵三
写真提供=NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]

05 仙台 アート部門

せんだい演劇工房10-BOX
TRUNK | CREATIVE OFFICE SHARING
2012年1月22日～29日 会期中無休
メイン展示=田村友一郎「NIGHT LESS」
(第14回アート部門優秀賞)



トーキョーワンダーサイト渋谷での展示風景
©田村友一郎 © Google

主催=文化庁 共催=岡山市デジタルミュージアム、COMITIA、神戸ピエンナーレ2011、長崎県美術館 協力=TRUNK | CREATIVE OFFICE SHARING せんだい演劇工房10-BOX
事務局=CG-ARTS協会(財団法人画像情報教育振興協会)
*詳細はウェブサイト「文化庁メディア芸術プラザ」にてお知らせします。
<http://plaza.bunka.go.jp/>

問い合わせ先
CG-ARTS協会 文化事業部
Tel. 03-3535-3501 <http://plaza.bunka.go.jp/q/>
*展示作品は予定です。場合によって変更されることがあります。
*今年度の文化庁メディア芸術祭作品募集は7月中旬からの予定です。



文化庁メディア芸術祭ネットワークスのポスター

メディア芸術の祭典が、ジャンルごとに全国巡回

文化庁メディア芸術祭 ネットワークス

1997年にスタートした文化庁メディア芸術祭。15年目を迎える今年、新たに始まる国内巡回事業「文化庁メディア芸術祭ネットワークス」は、メディア芸術祭をもっと身近なものとして知ってもらいたいの試みだ。夏から順次始まるイベントについて、事務局の担当者に聞いた。

会場ごとにテーマがある、分散型展覧会

アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの先端的な作品が集まる祭典として、回を重ねるごとに存在感を増している「文化庁メディア芸術祭」。その国内巡回事業が「文化庁メディア芸術祭ネットワークス」と題されこの夏から、全国の美術館やイベントをめぐる。メインとなる展示プ

より深く、広い射程でメディア芸術を知る機会

「文化庁メディア芸術祭ネットワークス」の特徴の一つは、作品を深く掘り下げて紹介することだ。出展作品がつけられた経緯や、作家自身の思い、また作家のメディア史からの影響など、作品の理解を助ける映像やパネルが多数用意されている。

「出展される作品は、各分野の大賞受賞作品を中心に、2月の国立新美術館で行われた受賞作品展で好評だったものが選ばれています。例年の受賞作品展では、多数の作品を一度に展示する状況から、一つひとつの作品を掘り下げて紹介することは残念ながらできていません。今回の巡回では作品の魅力や存在に知っていただくことができると思います」と木村さんは話す。

また、展示の別コーナーとして設ける、メディア芸術祭15年間の足跡をたどる年表では、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの各分野が、どのように時代と呼吸しながら変化してきたかを一望することができると。さらに、メディア芸術祭で選ばれたアニメーション作品や映像作品を紹介する上映プログラムも全国10か所以上で実施される予定です。全国を巡回する「文化庁メディア芸術祭ネットワークス」。身近な体感しに出かけたい。



第14回文化庁メディア芸術祭の受賞作品展会場(国立新美術館)

ログラムでは、全国5か所の会場ごとにアート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの各部門に焦点が当てられ、昨年度の受賞作品等を展示。また、受賞者を招いて作品や創作活動についてのトークショーも予定されている。「メディア芸術祭ではこれまでも海外展や地方展等を実施してきましたが、今回の『文化庁メディア芸術祭ネットワークス』は、よりカジュアルな形でメディア芸術祭を知ってもらおうという狙いがあります。例年、2会場で行っている地方展では、すべての部門の作品を企画展として再構成してきました。そのような展示は芸術祭の全貌を知っていただけという反面、ある程度広い美術館が会場となるため、開催地が限られてしまいます。そこで今年度から地方展に加え、作品数をしぼった全国巡回をすることにしました」と事務局の担当者、木村奈緒さん。芸術祭の要素を分散させることで、展示の機